



わかり合えるかどうかは実は重要ではない？

研究データ収集協力者の事後のインタビューからみえること その①



日本語を使った多人数複接触(内的・接触・第三者言語場面が複雑に共存する)日常会話場面のデータ収集協力者に行った事後インタビューにみられる多文化理解の可能性(わかり合えるのか)に係る語りに焦点を当て考察した内容について述べる。

川上ゆか(愛知大学)
yukawakamin@gmail.com

2019年8月 事後インタビュー

- データ
- 2019年度収集(6月~8月)
 - 大学の国際学生寮での日常会話
 - 日本人学生2名+外国人留学生4名
 - 各30分程度×9回+事後インタビュー(6名×20分)

Q.それぞれの関係性って変わった?

※2階は共有スペース

- 日本人学生1: **結構、変わりました。**特にAって2階になかなか下りてこなくて。私もどうやって仲良くなったらいいだろうと**試行錯誤**というか1人でも大丈夫みたいな感じだったので。
- 留学生 A: 特に私は、ちょっと**宇宙人**みたいな。(宇宙人だったの?) まあ宇宙人じゃなく、みんなはいつも2階で遊んでいたの、**私は外から入りました。**(ちょっと宇宙人みたいな感じだった最初) 私はそう感じたんですけど、**すごく親しくなった気がします。**(だんだん親しくなっていった感じ?) うんうん

関係性は変わった?!
最初より仲良くなった?!

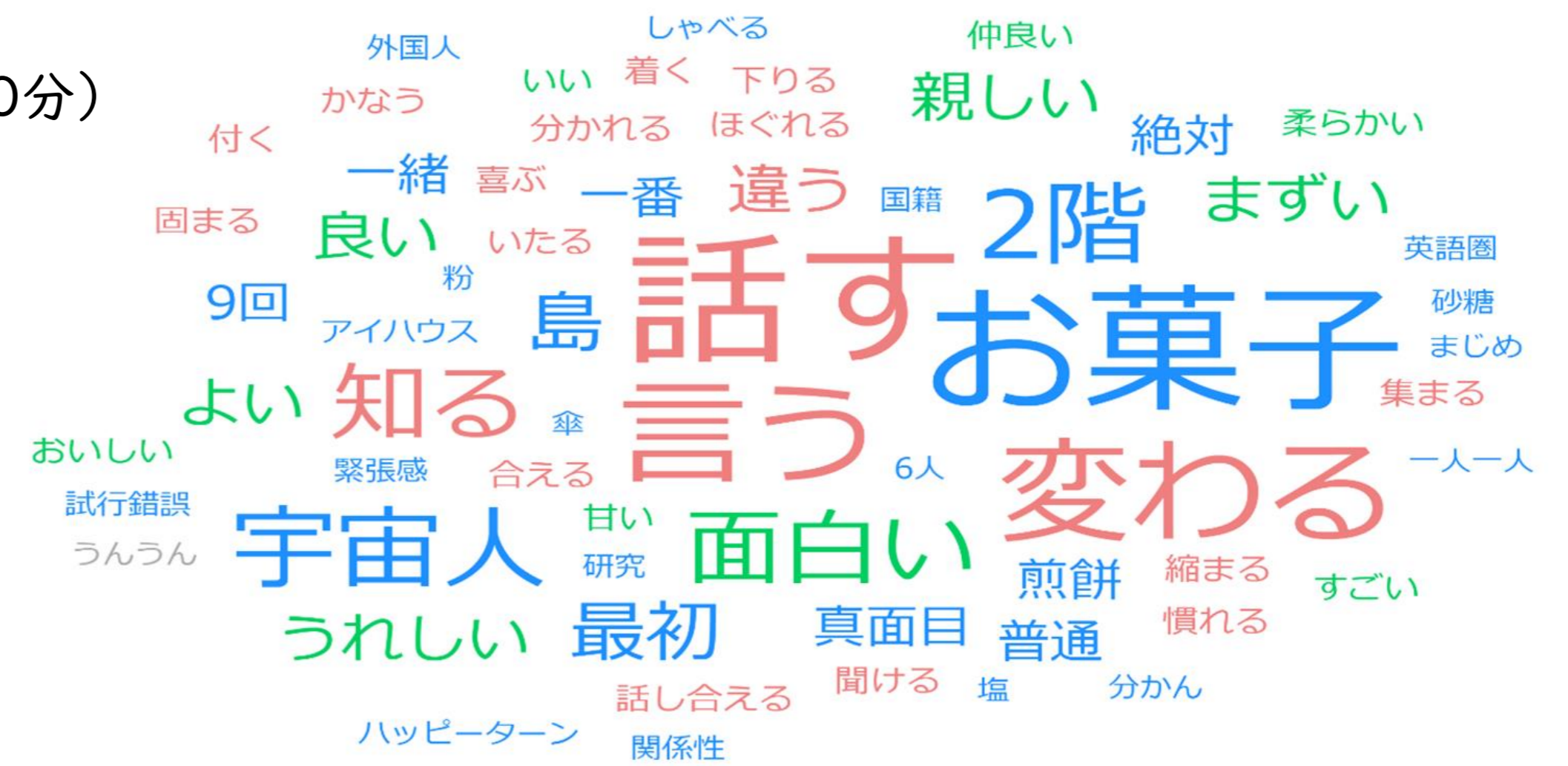


図1 「関係性の変化」に関する研究協力者の語りに見られる発言の出現頻度
User Local AIテキストマイニング: <https://textmining.userlocal.jp/>
(2021年6月28日利用)

Q.わかり合えないなと思ったことはある?

- ▶日本人学生1: わかり合えないな。えー。**そんなに。**そんなこともあるんだって知って。**知るだけでまた変わるじゃないですか。** そういう国もあるんだって、**全然受け入れられるので。**
- ▶日本人学生2: わかり合えない... **あんまりなかった** 気がしますね。**面白い発見とか新しいことも知れたし。**
- ▶留学生 B: **わかり合えると思う。**(ステレオタイプがあるときなどにどうしたらいい?) **少しの説明とか。**「それでもないよ」みたいな。 **説明し合えばわかり合える**
- ▶留学生 C: **僕とAはそういうときあったかな。**(なんで?) 多分Aが何か文句言って、多分僕が我慢してということ言った気がします。 **留学生同士での葛藤・衝突?!**
- ▶留学生 D: 多分、カラコンの話。**価値観が一番違うんだな**と思ったのも、**その話でした。** **でも、その違いがあって楽しかったです。**これ違うんだなと思って。 **違いを楽しむ姿勢**

日本人学生はそれほどわかり合えないとは思っていない

知って、受け入れる

説明し合えばわかり合える

留学生同士での葛藤・衝突?!

違いを楽しむ姿勢

データでの言動メモ

- 1回目: 6月3日
- この6名が集まるのはめずらしい発言
- 「やっとなと話せるね」(からかい) → Aがどうして2階にあまり来ないかの釈明
- 7回目: 7月8日
- Aがめずらしく学生寮のイベントに参加
- 9回目: 7月22日
- お互いのアイスクリームを一口まわし食べ

お菓子をめぐるとの攻防戦

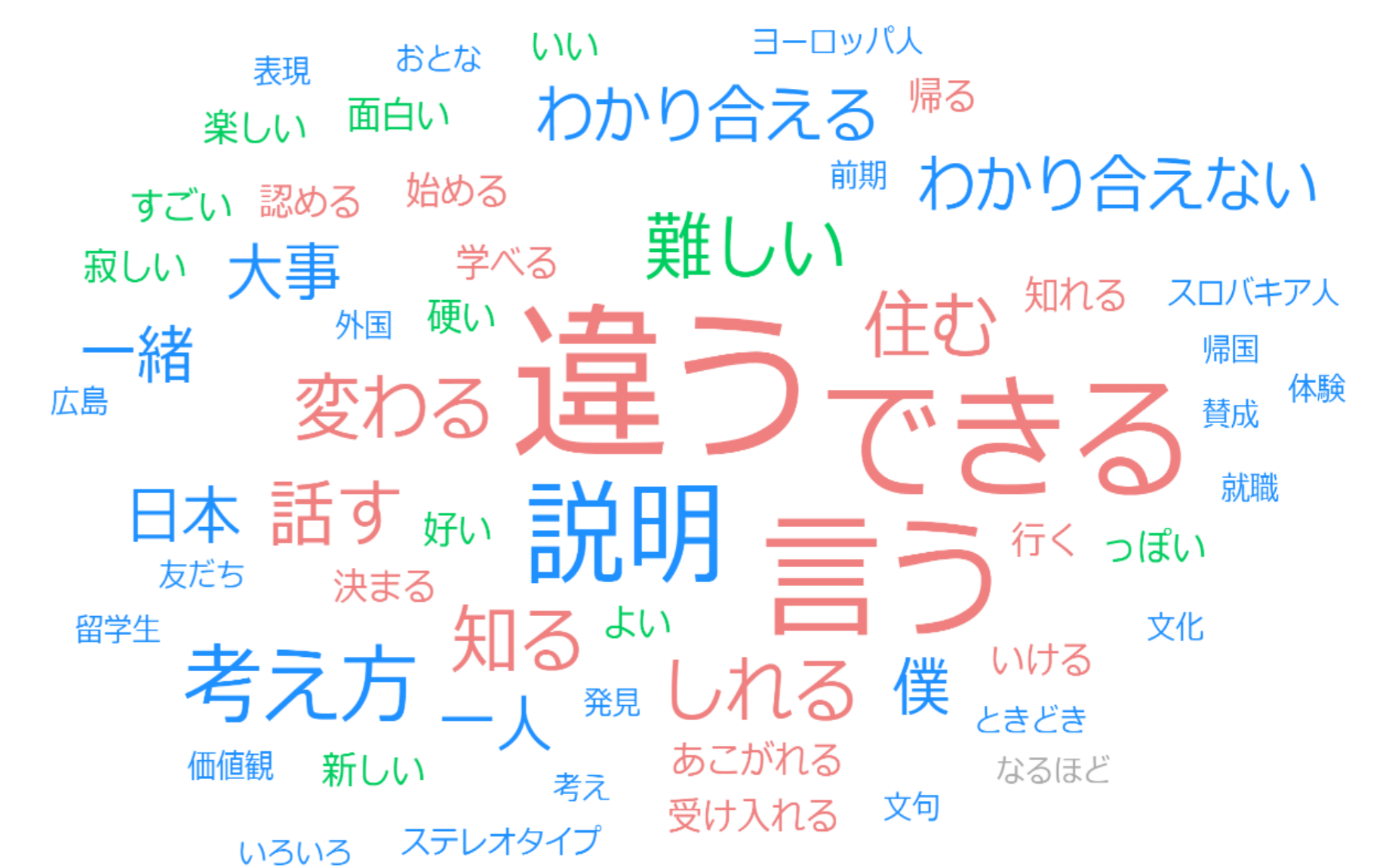


図2 「わかり合えるか否か」に関する研究協力者の語りに見られる発言の出現頻度
User Local AIテキストマイニング: <https://textmining.userlocal.jp/>
(2021年6月28日利用)

留学生A: (わかり合えるかどうかより?) それより、多分考え方が違うんでそれは大丈夫って思います。**賛成できないけど...**中略...これは日本に来て初めてできなかったと思います。

相手の意見に賛成できないけど、お互い考え方が違うから、それはそれでいいと思う。ただ、そう思うことは日本に来た当時は(自分には)できなかった、という意味の発言

あ! わかりあえなくてもいいんだ

多文化間の活動では「わかり合うことが必要だ」と思い込んでいた私に**別の視点**を与えてくれた

留学経験、多文化クラス、研究協力が**留学生Aの考え方を**変容させた点も見逃せない

背景

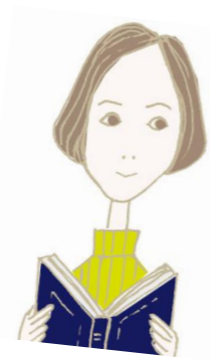
在留外国人&訪日観光客
留学生30万人計画達成
日本のグローバル化推進
国際/英語教育の強化
外国人材の受入(法改正)

「国籍や民族などの異なる人々が、**互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと**」
地域における多文化共生の定義「多文化共生推進に関する研究会」(2005.6)

内なる国際化

多文化共生

- ・留学生教育
- ・異文化コミュニケーション
- ・国際共修(多文化クラス)
- ・地域での活動



日本人学生と留学生によるグループ活動にみられる発話量の**非対称性**(杉原、2010)

国際共修クラスでの話し合いでは、お互いの**異なりを出し合う機会**や**真に相手を理解する対話にはつながってはいない**(山田、2016)

多文化環境では互いの話し合いの進め方に**違和感**を覚えたり、**誤解**が生じたりする可能性有(森本・水上・柳田、2013)

話し合いには「**意識の変容**」や「**参加者の組織や役割を再認識する**」、「**相互理解**」などの機能がある(村田・水上・森本、2020)

お互いの異なりを出し合い、**対等**に対話し、**真に理解し合う**ことはできるの?

違和感や誤解を乗り越えるためには?

今後の課題

「わかり合えなくてもいい。でも、相手の意見は尊重する。お互いに意見を言い合おう」という状態になるにはどのような**要因**があるのか、どのような**環境づくり**をすればいいのか?!

飲食行動を
ともにする

説明する努力

楽しむ姿勢

からかい
(冗談)

衝突を厭わない

わかり合えなくて
いい

+ファシリテーターの調整・適度な介入

【参考文献】
Mezirow, Jack (2010) Transformative dimensions of adult Learning. Jossey-Bass.
森本郁代・水上悦雄・柳田直美(2013)「留学生による話し合いに対する評価に影響を与えるコミュニケーション行動」『総合政策研究』、44、pp.41-52、関西学院大学
村田和代・水上悦雄・森本郁代(2020)「話し合いの可能性—異質な他者との対話を通じた学習とは—」『社会言語科学』Vol.23, No.1, pp.37-52
小木しのぶ(2015)「テキストマイニングの技術と動向」『計算機統計学』Vol.28, No.1, pp.30-41
総務省「多文化共生の推進」https://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/chiho/02gyosei/05_03000060.html(2021.6.21閲覧)
杉原由美(2010)『日本語学習のエスノメソドロジー 言語的共生化の過程分析』勁草書房
山田明子(2016)「多文化共生を目指した留学生・日本人学生によるグループ活動の実践—タスク達成プロセスの相互行為からみる多文化共生—」『日本語教育方法研究会誌』Vol.22 No.3

- ◆実際の相互行為を詳細に観察し、**わかり合えないと参加者が感じている部分**で何が行われているのかのマルチモーダル分析
- ◆「お菓子」をめぐるとの**わかり合えない相互行為**を分析
- ◆意識の変容(Mezirow, 2010)も用いた**通時的な分析**